

令和7年度 第2回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和7年8月25日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第2回 総合教育会議	
日 時	令和7年8月25日（月）午後3時00分～4時05分
場 所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	長坂 尚登 市長 中島 美奈子 教育委員 内浦 有美 教育委員 原田 憲一 教育長 渡辺 嘉郎 教育委員 西島 豊 教育委員
事務局	石川 和志 教育部長 鈴木 大介 教育政策課長 加藤 友治 教育会館長 白井 陽子 くすのき特別支援学校教頭 林 真也 財政課長 伊丹 浩之 学校教育課長 杉山 富美子 くすのき特別支援学校校長 ほか 6名
その他	傍聴人 5名

議 事 日 程

□協議事項

- 1 豊橋市立くすのき特別支援学校10年のあゆみと課題について
- 2 教育大綱の見直しについて

□連絡事項

次回開催日程 令和7年11月14日（金）14：00～

(教育部長)

ただいまから、令和7年度第2回豊橋市総合教育会議を開催いたします。お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。本日の協議事項は、「豊橋市立くすのき特別支援学校10年のあゆみと課題について」、「教育大綱の見直しについて」です。それでは、資料1を事務局から説明してください。

協議事項

1 豊橋市立くすのき特別支援学校10年のあゆみと課題について

■くすのき特別支援学校教頭 協議事項について資料説明

(教育部長)

それでは、説明に対する皆さまのご意見などをお聞かせいただければと思います。

(渡辺委員)

児童生徒数が減少している中で、特別支援学校の児童生徒数が増加している理由と、在籍児童生徒数は今後も増え続けると考えているのか教えてください。

(くすのき特別支援学校教頭)

明確な理由は分からないのですが、障害に対する理解が広まることで、より適切な教育支援を子どもに受けさせることを選ぶ保護者が増えたことが、増加理由の一つとして考えられます。一方で、今後、在籍児童生徒数が増え続けるとは思っておりません。

(渡辺委員)

今後の対応を考える上でも、特別支援教育を希望する児童生徒が増加している理由を明らかにする必要があると思います。もう一点、くすのき特別支援学校と地元の学校で学ぶことと、どちらが良いのでしょうか。

(くすのき特別支援学校教頭)

保護者にも説明しておりますが、それぞれメリットとデメリットがあります。

特別支援学校で学ぶメリットは、障害や児童生徒の特性に合わせた教育をスモールステップで行えることです。一方、地域との関係性の希薄化、バス通学による体力低下の問題、教科学習の時間が少ないこと、子ども同士の関わり合いが少ないといったデメリットがあります。

(渡辺委員)

卒業生も出てきていると思いますが、特別支援学校ではなく、地域の学校で学ぶほうが良いのではというケースはあるのでしょうか。

(くすのき特別支援学校教頭)

仮定の話になるため回答は難しいです。過去には、小学部の低学年をくすのき特別支援学校で過ごし、その後、地域の小学校に転校した児童がおりますが、当該児童の場合は、発言もしっかりできて、クラスの友達と関わって遊ぶことができるなどの成長が見られました。

(中島委員)

特別支援学校、特別支援学級、通常学級の上手な住み分けが難しいと思います。保護者の意思もありますが、選択の基準が求められるようになるかもしれません。子どもたちにストレスのない範囲で、特別支援学校と地元の学校を行き来することは良いことだと思います。

(西島委員)

特別支援学校の児童生徒数の増加は、全国的なものなのでしょうか。

(くすのき特別支援学校教頭)

全国的なものだと思います。

(西島委員)

全国的なものであるとすると、国の方向性なども踏まえながら、大局的な視点で課題解決の方向性を考えていく必要があると思います。この10年間で、外国籍の児童生徒も増えたように思いますので、変化を踏まえた対応が必要かと思います。

くすのき特別支援学校の企業連携の一つであるサテライト実習などは、就労に繋がる素晴らしい取り組みだと思いますし、地域の学校の先生たちが、専門的な知識や技術を持ったくすのき特別支援学校の先生たちから学ぼうとする姿勢が見られることは豊橋市の特徴だと思いますので、こうした強みを生かして、課題を共有しながら、方向性を探ることが大事かと思います。

(教育長)

小・中学校の特別支援学級や特定の時間に生活指導などを行う「通級」のニーズも増えています。その背景には、保護者の障害に対する理解や、個別支援のニーズの高まりがあると思います。特別支援学校だけでなく、小・中学校での特別支援教育の在り方も考える必要があると感じています。

(内浦委員)

スクールバスの課題が取り上げられていましたが、近隣自治体での対応事例や全国的な好事例も踏まえた継続的な議論が必要かと思います。

(市長)

特別支援学校の設置運営は基本的に愛知県の所管業務です。豊橋市では市立くすのき特別支援学校を設立して対応していますが、私が市長に就任してからも、愛知県に対して、特別支援学校の拡充を要望しています。

試案にもありましたが、特別支援学級や通常学級と相互に行き来することで、子どもたちの成長につながるのではないかと思います。

(教育部長)

それでは、「豊橋市立くすのき特別支援学校10年のあゆみと課題について」は、ここで議論を閉じさせていただき、次の次第に移りたいと思います。

資料2について、事務局から説明してください。

協議事項

2 教育大綱の見直しについて

■教育政策課 主査 協議事項について資料説明

(市長)

私から少し補足します。

資料２－１については、「自分」「周り」「地域」と広がりを持つ形で大切にできるようになってほしいため、すべて「一、」ではなく、「一、」「二、」「三、」としました。

資料２－２については、教育大綱ではなく、前回の総合教育会議での意見を踏まえて、資料２－１のそれぞれのメッセージに対する解説として作成したものです。資料２－２をどのように活用するかは決まっていません。

(渡辺委員)

解説があったほうが分かりやすいと思います。子どもたち、保護者、市民とそれぞれに對してどういった場面で活用するかは考えていますか。

(教育部長)

活用については、今後の協議事項となります。

(渡辺委員)

はじめに、「自分を大切にできる人になろう」とあるのが、時代の流れにも合っていて良いと思います。基本は自分を大切にできることが大事だと思います。

(教育部長)

大綱につきましては、この案で進めていくこととしまして、活用方法につきましては、今後、議論していきたいと思います。

それでは、本日の会議の総括を市長にお願いしたいと思います。

(市長)

本日は「豊橋市立くすのき特別支援学校 10 年のあゆみと課題について」と「教育大綱の見直しについて」を協議させていただきました。

教育大綱については、3 回目以降も継続して協議を行いますので、よろしくお願いいたします。特別支援学校については、前回のいじめ・不登校もそうですが、豊橋市はかなり頑張っていると思います。課題に対してはしっかりと向き合っていかなければならないと思います。

連絡事項

- ・次回開催日程 令和 7 年 11 月 14 日（金）14:00～

(教育部長)

以上で、令和 7 年度第 2 回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。